

科目名 (科目番号)	臨地実習 (102213)	教員名	臨床検査 学科教員	学科等	臨床検査	必修	履修年次	3
				曜日・時限等	時間割表参照	単位数	10	
				オフィスアワー		各担当教員シラバス参照		
授業概要	3年次前期までに学内で修得した知識・技術をもって、病院検査科・部で実習を行う。臨床の場で疾患と直結した知識や技能を高めることが目的であるが、併せて情意面を重視して実習する。医療人としての基本的な言葉遣いや態度、患者や病院職員とのコミュニケーション、検査に取り組む姿勢（責任・倫理）などを習得する。また、学内実習では教授できない患者からの検体採取、検体の処理、検査法の実施、検体の保存方法、結果報告まで、一連の流れ業務を体験し習得する。							
準備学習								
授業計画	授業項目		到達目標・学習内容					
	<p>学習内容・到達目標：</p> <p>茨城県内を中心に東京都内および近県の医療施設で実習する。実習準備学習として実習前にオリエンテーション(講義・演習・実習)を、実習成果確認として実習後に報告会と試問を課す。</p> <p>1 臨地実習期間は約10週間であり、実習する病院によって内容は若干異なるが、原則として以下の内容について学習し、説明できる。</p> <p>2 講義や学内実習で学んだ知識を基に、実際の医療現場で行う実習の目的および作業の流れなどを理解し、説明できる。</p> <p>3 生体系検査実習として生理機能検査学実習(循環機能、呼吸機能、神経機能、感覚機能、超音波検査などの画像検査)を理解し、実施できる。</p> <p>4 検体系検査実習として臨床検査総論実習(医動物学を含む)を理解し、実施できる。</p> <p>5 検体系検査実習として病理検査学実習を理解し、実施できる。</p> <p>6 検体系検査実習として臨床化学実習を理解し、実施できる。</p> <p>7 検体系検査実習として臨床血液学実習を理解し、実施できる。</p> <p>8 検体系検査実習として微生物検査学実習を理解し、実施できる。</p> <p>9 検体系検査実習として免疫検査学実習(輸血学を含む)を理解し、実施できる。</p> <p>10 医療人としての基本的な言葉遣いや態度、倫理感について実地に学び、実施できる。</p>							
成績評価の方法・基準	各臨地実習病院の評価をもとに実習前後の学修状況を勘案して総合的に評価する。							
教科書	各臨地実習病院の各部門で適宜指示する。							
参考図書	臨床検査学実習書シリーズ(全10巻)		日本臨床検査学教育協議会 監修			医歯薬出版		
教員からのメッセージ	実際の臨床現場で学ぶ検査実習をより充実したものになるように、健康についての自己管理を十分にすると共に、実習日誌などの提出物の提出や復習をしっかりと行って下さい。							